

2009年

1月6日 火 ▶ 3月29日 日

福岡市美術館 企画展示室 (2F常設展示室内)

21世紀の作家-福岡

bis  
2009

常設企画展

Artists in Fukuoka in the 21st century bis 2009

○月曜休館(ただし、1月12日(月)は祝日のため開館し、翌13日(火)が休館。)  
○開館時間 / 9時30分~17時30分(入館は17時まで)  
○観覧料 / 本展は常設展示観覧料の無料となります。  
○観覧料 / 16(小学生)15(中学生)10(高校生)5(中学生、福岡市発行のシルバーパス持者および北九州市内の年長者施設利用証、障害手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者は無料。) / 16は、20人以上の団体料金。  
○主催 / 福岡市美術館

中崎博之

NAKAZAKI Hiroyuki



遠山裕崇

TOHYAMA Hirotaka



平岡昌也

HIRAOKA Masayo





# 21世紀の作家-福岡

# bis

## 2009

常設企画展

Artists in Fukuoka in the 21st century bis 2009

### 関連事業

1月31日(土) 14時～  
**出品作家によるアーティストトーク**  
 ゲストコメンテーター  
 尾崎信一郎氏(鳥取県立博物館美術振興課長)  
 〈会場〉教養講座室(当館1階) ※聴講無料、申込不要。



### 地下鉄 駅

●空港線/福岡空港駅から15分、博多駅から10分、天神駅から5分で大濠公園駅下車、3番出口より徒歩10分。

●七隈線/天神南駅から8分で六本松駅下車、2番出口より徒歩10分。

### 車

●福岡空港から30分、博多駅から20分、天神から10分

### バス 乗バス停

●博多駅から、交通センターより[系統番号13・140]で城内美術館東口下車、徒歩3分、または[系統番号12・113・114・200・201・202・203・204]で赤坂3丁目下車、徒歩5分。

●天神から、協和ビル前より[系統番号13・140]で城内美術館東口下車、徒歩3分、[系統番号12]で赤坂3丁目下車、徒歩5分、天神警固神社・三越前より[系統番号6・7・113・114・200・201・202・203・204・205]で赤坂3丁目下車、徒歩5分、[系統番号6-1]でNHK放送センター入口下車、徒歩3分。

## 福岡市美術館

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6

Tel 092-714-6051 Fax 092-714-6145

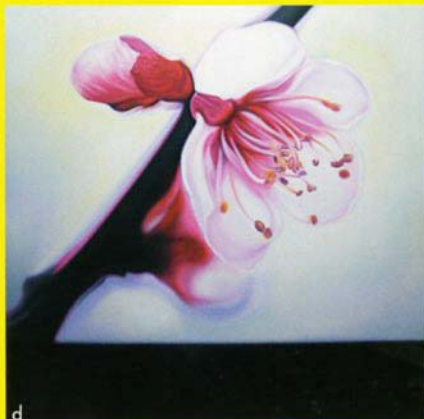
<http://www.fukuoka-art-museum.jp/>

福岡市美術館は、1999年度よりシリーズ企画展「21世紀の作家-福岡」を継続的に開催しています。福岡市域の美術状況に活力を与えてきた現代作家を個展形式で紹介し、新作制作の支援と資料性の高い図録を作成することで、微力ながら地元美術史形成の一翼を担って参りました。今回、より若い世代の作家たちに制作の支援と発表の機会を与え、福岡の美術シーンを活性化することを目的として、2008年度より「21世紀の作家-福岡 bis」を不定期に開催することといたしました。

本展は、下記の要領で開催されます。

- ①おおむね20代-30代前半の年齢に属するか、または個展・グループ展などの活動実績が比較的短い作家を対象とする。
- ②出身は問わないが、福岡市都市圏とその周辺で活動を行っている作家を対象とする。
- ③展覧会は2人以上のグループ展形式とし、展覧会開催時点において、もっとも活躍が期待される作家を対象とする。

初回となる本展では、絵画の分野で活動している3人の美術作家-遠山裕崇、中崎博之、平岡昌也を紹介いたします。映像や写真、パフォーマンスなど現代美術の表現手段は多様化を極めていますが、それでも「絵画」という旧来の表現手段は、今も若い作家たちの関心を引き続けています。福岡にも、新しい絵画表現に果敢に挑戦する若者が多数存在します。中でも今回取り上げる3人の作家たちは、独自の問題意識を根底に据えた力強い作品で、福岡の美術状況をリードしてきました。本展では、特にテーマを設けず、3人の作家たちの、それぞれの絵画に対するスタンスをありのままに示し、現代絵画の多様性の一端をご紹介したいと思います。



### 遠山裕崇

TOHYAMA Hiroyasu

とよやま ひろたか  
 1977(昭和52)年 鹿児島県生まれ  
 福岡市在住

2003年九州芸術工科大学。絵画形式の諸問題を再検討することで制作をスタート。主に自ら撮影した草花の写真を元に、油彩や岩絵の具など多彩な画材で精密に描写する。しかしその関心はあくまでも、「絵画」の理念的な探求にある。



※掲載図版は、出品作品とは異なります。



### 平岡昌也

HEIOKA Masayo

ひらおか まさや  
 1980(昭和55)年 福岡県生まれ  
 福岡市在住

2003年九州産業大芸術学部卒。「うらう(雲雨)」と題した作品を制作。筆触の痕跡を思わせるマチエールを絵の具で覆い隠した平面作品。絵画表面の物質的な重なりと支持体との関係への批評的視点が伺える。

c	(表面)	a(遠山裕崇)	無題 2008年
	a	b(平岡昌也)	うらう(雲雨)-Touch & Cover Series 2007年(部分)
		c(中崎博之)	S-1766 2007年(部分)
d	(裏面)	d(遠山裕崇)	無題 2008年
	e	e(平岡昌也)	うらう(雲雨)-Touch & Cover Series 2006年
		f	f(中崎博之)

### 中崎博之

HAKAZAKI Hiroyuki

なかざき ひろゆき  
 1973(昭和48)年 宮崎県生まれ  
 福岡市在住

1996年九州産業大芸術学部卒。アニメや映画の「爆発」のシーンをデジタル画像処理したものをアクリル絵の具で描く。サブカルチャーとの関連も想起されるが、画家はフラットで現代的な平面構成へ深い関心を示す。